

令和 3 年度

常陸太田市 地域おこし協力隊

○隊員名

松原 勝之 (まつばら かつゆき)

○活動ミッション

農業の担い手 (ぶどう栽培)

○活動開始

令和 3 年 4 月 1 日 ~ (1 年目)



自己紹介

常陸太田市に移住する前は、東京都で約 6 年間公務員として働いておりました。働いていく中で、次第に自分で事業をやってみたいと考えるようになりました。起業するにあたって、様々な産業を調べていくと農業に興味を湧き、その中からぶどう農家を選択。

現在は、師匠である本多孝文さんが営む「本多ぶどう園」にて日々修行に励んでいます。

ぶどう農家として独立後は、ぶどうの生食販売だけでなく、ぶどうの加工品(ワインやゼリー等)の製造・販売も行い、雇用を生み出せるレベルまで事業を発展させていきたいです。「雇用創出」を通じて常陸太田市を盛り上げていきます。趣味は料理です。結婚してから、妻に栄養バランスの整ったものを食べさせたいとの思いから料理を始めました。得意料理は、肉汁をゼラチンで中に閉じ込めたハンバーグです！

常陸太田市を選んだ理由

農業をやりたい、ぶどう農家になりたいと動き出したとき、農業雑誌の記事で「地域おこし協力隊」の制度を知りました。

地域おこし協力隊の制度に魅力を感じ、調べていく中で、常陸太田市が唯一、ぶどう農家として独立を目指す協力隊を募集していました。すぐにでもぶどう農家としてスタートしたいという思いから、迷うことなく応募し現在に至ります。

ぶどう栽培研修が順調に進んでいること、そして常陸太田市は、大自然の中に住みつつも、車を走らせれば都会へのアクセスが良く、大変充実した暮らしをすることができています。



常陸太田市の魅力発見!

○「本多巨峰園・藤棚」

8・9月には美味しいぶどうが豊富に揃い、大変な賑わいを見せる本多巨峰園ですが、4月中旬から5月上旬には、駐車場脇の藤の花が美しく咲き誇っており、まるで別世界に行ったような気分になれます。

入場料がなく、誰でも入場できるようになっています。

ぜひ、足を運んでみてはいかがでしょうか。

○場所:増井町 1051



活動内容

農業の担い手（ぶどう栽培）

○活動の目的

師匠の元で栽培技術を身につけ、常陸太田市内でぶどう農家としての独立を目指します。

○実際の活動内容

馬場町にある「本多ぶどう園」にて農業研修中。

師匠である本多孝文さんから、栽培技術から経営・会計に関することまで、日々、たくさんの事を教わっています。

ぶどう農家の仕事は4月から9月までが、栽培・販売の繁忙期。

私も今年、4月からたくさんの作業を行ってきました。



→4月	ビニール張り・枝誘引	→5月	花切り
→6月	摘粒	→7月	袋掛け
→8月	ハウス栽培ぶどう販売	→9月	露地栽培ぶどう販売
→10月	ビニール外し・お礼肥		

4月、研修がスタートした頃は体力が無く、肉体労働の多い農作業で毎日ヘトヘトになっていました。6月くらいになると次第に体力もつき始め、キツイ作業が連日続いても、耐えられるようになりました。

やりたかったぶどう栽培を毎日やれている喜びを感じながら、忙しい日々があっという間に過ぎていきました。そして、8・9月のぶどう販売。自分が育てたぶどう達が、たくさんのお客様の元へ渡っていきました。お客様からの「美味しい」という言葉がとても嬉しく、これからも頑張ろうという思いが湧きました。

※展示物の冊子「オー！タフル」には、常陸太田市内のぶどう園・梨園の紹介や、ぶどう・梨に関する様々な豆知識などが掲載されていますので、ぜひご覧下さい。